

相場師朗の株トレード道場無料講座 第1話

相場：皆さん、こんにちは。相場師朗です。

加藤：こんにちは。アシスタントの加藤満里子です。これから皆さんには「相場師朗の株トレード道場無料講座」と題して、株職人の相場師朗さんが実践されているプロのトレード技術を解説していただきます。相場さん、よろしくお願いします。

相場：よろしくお願いします。何かラジオみたいですね。

加藤：そうですね。そういう息の合ったところを皆さんにご覧いただこうと思います。

それでは早速、相場さんのご紹介をさせていただきます。相場師朗さんは、国内外の金融機関でディーラー、ファンドマネジャーとしてご活躍の後、早期リタイアを果たされます。その後は自己資金の運用のため、さらなる株トレード技術の向上を目指し、研究を深められています。元来の職人肌気質から株の道を極めるべく、狭く、そして深く、株の技術を磨いていらっしゃいます。投資歴30年以上の株職人でいらっしゃるわけですね。江戸時代からのうねり取りをさらに進化させた相場さんのトレード手法は、再現性の高さと、練習すればトレード技術が上がると評判です。今まで教えた弟子は3,000名に上り、今も日々、増え続けています。その中には億の資産を築いた方もいらっしゃるそうですね。

相場：そうですね。

加藤：すごいですね、相場さん。

相場：いろいろ今、加藤さんに何か、ちょっとむずむずするようなプロフィールのご紹介をいただきましたけれども、私が一番強調したいのはやっぱり株職人ということですね。過去の経歴とかそういうことではなくて、もう職人として一つの道を極めているというところを強調したいです。

それから、私の場合は皆さんと同じように、東京証券市場で実際にお金を張って、実弾を張ってトレードしています。つまり鉄砲玉の下をくぐって、実際にトレードしています。いろいろ評論家とか、記者さんとかがいらっしゃいますが、皆さん、自分のお金は投入しないで、こうだあだと言っていますが、私は皆さんと一緒に実弾で、現場をくぐっています。

加藤：日々、市場で戦っていらっしゃるということですね。

相場：戦っていると、そういうことですね。

私は自分の今までの株のトレード歴を振り返ってみますと、大学 2 年生のときにビルの窓掃除を、結構、危険なアルバイトを。

加藤：だって、高いところを。ありますよね。

相場：そうそう。ビルの十何階とか。だから、1 日 7,000 円もらえたのですよ、あの当時。

加藤：じゃ、随分、アルバイトとしてはお給料が良かったのですね。

相場：お給料が良かった。昭和 50 年代の後半ですから。そのお金でためた 60 万を 9101、日本郵船に投入しました。そこから 20 年間、日本郵船以外のトレードはやらない。もう日本郵船だけ。

加藤：のみ？

相場：のみ。ひたすら日本郵船。それで 20 億円、20 年間でいきました。

加藤：20 億ですか。

相場：はい。一つの銘柄だけをやっていく。もう職人。ひたすら日本郵船。

加藤：そんなことができるのですか。

相場：もう何を見ても日本郵船。そのぐらい一生懸命やりましたね。

私はここ数年、弟子をつくって、あるいはセミナーの講師としていろいろやらせていただいているのですが、10 年来の弟子の一人、女性ですね。加藤さんと同じぐらいの女性ですけども、4 億円も稼ぎましたね。

加藤：4 億円の成果を出されているのですか。

相場：出しています。それで、海外にもう移住してしまいました。すごいですよ。プールサイドでトレード。携帯でトレード。

加藤：優雅ですね。何かちょっと夢みたいな世界ですね。

相場：そう。ただ、日本に帰ってきたときだけ彼女はトレードする。もうそれぐらいで十分。

加藤：じゃ、めりはりをつけていらっしゃるわけですね。

相場：そうですね。それから、どうだろう。加藤さんのラジオの番組にも出演していただいた、某大手美容整形外科の院長先生。

加藤：皆さんもよくご存じの、きっとテレビなんかでコマーシャルをご覧になっている病院ですね。

相場：はい。もう私の弟子になって、トレード一筋でやっていくということで、院長先生を辞めてしまいました。

え

加藤：株トレード。一筋。

相場：一筋ということで、頑張っておられて。

それから、いろいろいますよ。大手企業の元役員さんとか、学校の先生だとか、車の運転手さんだとか、美容師さんだとか、ケーキ屋さんもいらっしゃるし、景気がいいと思いますよ、きっとね。

加藤：そうですね。

相場：たくさんの方がいらっしゃいますが、先ほどご紹介いただいたように、再現性がある。一度できたことはできる。株はまぐれとか当て物ではなくて、株は技術だと。技術なんだと。だから、ピアノとか、それからキャベツの千切りのお話をしていますが、とにかく練習すれば上手になるということをみんなに伝えて、私が皆さんに言っていますのは、硬派であれ。それから、勤勉であれ。そういう仲間たちが私のところに集まってきてくれていて、大変うれしいです。

若い頃は、会社の中で偉くなろうだとか、お金をいっぱい稼ごうとかと思ったけれども、もう 50 を超えていると、弟子たちが育っていくのがうれしい。いろいろお教えして、そして、皆さんが喜んでくれる。何か人の喜びがうれしいというのが分かるようになりましたね。

加藤：じゃ、その弟子の皆さんの喜びが相場さんのエネルギー、パワーにもなってくるということですね。

相場：そうですね。加藤さんもラジオで、リスナーからカトマリさんとか嬉しいじゃないですか。だから、何かプロ野球の選手が「ファンの皆さまのおかげで」なんて言っているのよね。

加藤：よくヒーローインタビューとかで。

相場：あれは本当だと思いますよ。ますます弟子たちの成果とか行動を見て、やる気が起きている今日この頃であります。

加藤：熱く語っていただきました。そんな熱い相場さんなですけれども、いつもラジオの番組で怒っていただいていますよね。

相場：怒っていますよ。

加藤：いただいているというか「怒っているぞ」というコーナーがあるのですが、相場さん、何か怒っていることがあるそうですね。

相場：ありますよ。この株の世界で言ったら、例えばアナリスト。

加藤：よくいらっしゃいますよね。

相場：いますよね。加藤さんも知り合いがたくさんいるでしょう。だから、あまり言えないね。アナリストだとか、それから評論家がよく言っていますよね。ここであるのですよ。「経済発表が良かったが、利益確定で下落した」。

加藤：場況ですね。

相場：そう。「経済発表が良かったが、利益確定で下落した」。なるほどね、なるほどね。これは後講釈ですよ。それから「円高進行により、株価の上値は重かった」。

加藤：よく聞くフレーズですね。

相場：よく聞きますよね。そうすると、前者は「利益確定で下落した」。過去形。それから「株価の上値は重かった」。過去形。先に「経済発表がいいけれども、利益確定で下落する」と言ってほしい。それから「円高進行によって、株価の上値は重くなるぞ」と言ってほしい。それを、みんな、後講釈。私は先講釈をしたいね。だから、こういうのはよろしくない。

それから、投資顧問もそうですよ。投資顧問も、もう「10倍上がる銘柄をお教えします」なんて言って、出来高が1日5,000株ぐらいしかない銘柄を全国版でやっているのだから。1,000株単位しか売買できない銘柄。5人が買ったなら終わっちゃうじゃないですか。それを全国版で皆さんに推奨してどうするのか。

加藤：買いが入れば、上がることは上がるのでしょうけど、その後、どうしたらいいのでしょうかね。

相場：みんなが売れば、下がってしまいますよね。だって、5人しか普段買う人がいない銘柄を全国で推奨して100人が買ったなら、それは上がりますよ。その会社は自分の成績のところに「暴騰」と書いてある。それは簡単に言ったら、インチキですよ。

たくさんそういうのがあります。私はそうではなくて、株は技術です。技術を磨けば、みんな、上手になるということを皆さんにお伝えしていきたいなと思っています。なので、そういうのに怒っています。ラジオでも怒ったことがありますもんね。「これ、こんなのインチキだ。この野郎」なんて。

本のほとんど半分ぐらいはもうインチキ。過去に自分がたまたまもうけた経験を本に書いているとか、今は駄目とか、そういうのもたくさんありますよね。われわれはこれから、2016年、実際にお金を張って勝ち抜いていく。そういう仲間にもいろいろ有用な技術をお伝えしたいなと思っています。

加藤：さて、相場さん、新しい年が明けたわけなのですが、ここで伺いたいのですが、2015年をどんなふうに捉えて、これから新しい年、2016年はどんなふうになるか。そのあたりのお考えを聞かせていただけますか。

相場：安倍政権が発足して、株価はずっと上がってきました。そして、2万円をちょっと超えたところまで、去年、2015年は行きました。私は月足的には……。月足というのは、ローソク足が1本で1カ月の月足的には強くなると思っています。

おそらく2015年には最終的に日銀が金融緩和をしませんでした。黒田バズーカはしませんでしたから、おそらく2016年、今年、どこかでやってくるだろうし、いろいろな経済対策もしてくると思うのですね。ですから、今年はまあまあ相場はいいはずなのですが、何と2013、14、15、それと16と、これで4年目になります。

私は1980年代からずっとトレードをしているわけなのですが、過去のバブルは全部、経験しています。1989年の日経平均が3万9,000円行ったとき。それから2000年のITバブル。それから2004年以降の小泉バブル、そして2013年からの安倍バブル。全部、経験しているのですが、過去のバブルではじけなかったバブルは一つもないのですよ。だから、この安倍バブルも国債を大量に発行していますし、黒田バズーカも相当、過去にもい

ろいろ市場にお金を入れていますから、これは1億パーセント、どこかで破裂します。破裂する前、どうなるかという、短い期間でもそうですが、上げ下げをしながら上がって行って、これは売りと買いでは買いが多いから上がっていくのです。やがて横ばっていきます。つまり上がって、横ばって行く。売りと買いでは買いが多いから上がっていくのですが、横ばいというのは、売り買いでは交錯してきて、今まで買いが多かったのが、徐々に売りが増えてくるのです。だから、上がって、横ばうと、大体下がってしまうのですね。これは3カ月スパンでも、1カ月スパンでも一緒です。この長い期間、今の加藤さんのご質問ですと、今後の日本経済ということになると、今までだいぶ上がってきましたから、どこかで2年とか、横ばう期間が出てきます。そして、横ばいの後は大きく下げていくという長いスパンでそうになっていると思うのですね。その中の、今、上がっている最中がこの2013年、14年、15年、そして16年ぐらい。

17年ぐらいにどうなるのかなというのは、消費税導入もあります。それからチャイナショックが一時、去年、騒がれましたが、やはりこれは根強いものがあるのです。それからギリシャ問題。それからスペインだって、ポルトガルだって、イタリアだって、過去、ヨーロッパでいろいろ騒がれてきて、小康状態ではあるけれども、これは解決したわけではありません。だから、いずれ出てきます。そこに日本国債をすごく発行していますから、これはあと数年後には横ばいになって、早ければもう再来年ぐらいから横ばいになって、その後は恐らく深刻な下落に見舞われるのではないかという感じが私はしますね。

この16年はだいぶいいのではないかと考えていますよ。

加藤：全体には強いと書いていいですか。

相場：今年は強いと思います。これは私がへなちょこと言っている評論家たちや新聞記者の人たちも今年は強くて、2万3,000円行くとか、5,000円行くとか言っていますけれども、それは当たっていると思います。今年は強い。ただ、強いけれども、1年に3回ぐらいの暴落は必ずあるのです。

加藤：必ずあるのですか？

相場：必ずあります。どうしてかという、上がってきました。ここまで上がりました。皆さん、もうかっているから、どこかで利益確定をします。そうすると、買う人が多いから上がってくるのだけれども、利益確定がちょこちょこ出てくるから横ばいになります。その後、その横ばいを見た人が「俺も、俺も、俺も」と売ってくるから、強い2016年でも3カ月に一遍、長いと、6カ月もたつと利益確定で売りが入ります。それから世界中でいろいろな問題も起こるだろうから、やはり年3回ぐらいの暴落はあって、私は過去のバブルを全部、トレーダーとして携わっていますが、一番良かった小泉バブル。5年間で株価は2.4

倍になりました。あのときでも 20 回、大幅下落。

加藤：20 回？

相場：5 年間で 20 回、大幅下落になっています。だから、今年は強いといっても、途中途中で大きな下落があります。そういうのも見込みながら。下落は下げ。空売りで下げを取る。そして、大きな上昇は買いで取る。これが私のやり方です。

加藤：相場さんのその手法を見せていただけるのですか。

相場：そうですね。実はそう言って経済のお話をしていますが、私は経済の知識は一切使わずトレードしています。そして、私の弟子たちもそうです。

加藤：使わないのですか。

相場：はい。先ほどお話しした 4 億円トレーダーもそうだし、某美容外科の元院長、それからプロ級の人がたくさんいますが、私の弟子は全員、経済の情報を使わず、ニューヨークダウがどうだったとか、為替がいくらだったとか、全く使わず、チャートだけでやっています。

加藤：チャートだけ。

相場：全てはチャートに表れる。こういう手技でやって、皆さん、上手になっています。ですから、これをちょっと後で皆さんにお見せしたいなと思っています。実際に私がどうトレードするのか。そして、弟子たちがどうして上手になったのか。これをご披露したいなと思っています。

加藤：それでは、チャートしか見ないという相場師朗さんに、チャート分析を見せていただきたいと思います。

相場：ちょっとだけね。

加藤：ちょっとだけね。はい。

相場：では、行こうと思います。皆さんにご覧いただいている、そして加藤さんにもこのパソコンで見いただいているのが、日経平均株価の年足です。年足というのは、ローソク足 1 本が 1 年です。ここは 2015 年、去年 1 年間、365 日。営業日で約 240 日あったものがこ

の1本のローソクに収まっています。

加藤：これで表現されているわけですね。

相場：表現されているということですね。

そして、ここも同じですよ。1989年、これはバブルの最高年、3万9,000円、日経平均が行った年の1本。

加藤：でも、チャートで見てもすごい高いですね。

相場：すごいですよ。ここが1989年の正月明けの東京マーケットの値段ですね。

加藤：大発会。

相場：そうですね。ここが大納会、1989年の12月末の値段です。これが1本で1年分。ここが2002年です。ここが2003年。2003年にはりそな銀行に公的資金が入って、そして銀行の倒産が免れた。そういう年なのですが、2003年と2002年を比べると、底が一緒でしょう？

加藤：本当ですね。

相場：分かりやすいようにペイントを使ってみますと、2002年、1年間の月足と、2003年1年間の月足をつないでいくと、ほぼ底は一緒なのです。並んでいるのです。そして、その後、小泉バブルで株価が1年、2年、3年、4年と上がって行って、そして5年目に下げ始めたのです。それから2年間、大きく下げて、実は前の2002年、2003年の安値と並んで、その翌年も、その翌年も、その翌年も、その翌年も並んで、どうでしょう。

加藤：本当ですね。

相場：1本が1年なのだから、それぞればらばらに動いて。

加藤：世界情勢とかいろいろなものもあったということですよ。

相場：変わったのに。そうです。総理大臣も何回か替わったのに、日本の経済情勢も、おっしゃるように世界情勢も変わったのに、この5年目、底値がぴったりほぼ同じ。しかも、小泉バブルの前、ぴったり同じ。つないでしまうとつながるぐらいです。

下値を見てください。これは下ヒゲ。下にも、ほら。

加藤：ヒゲもそろっているのですね。何か不思議ですね。

相場：不思議でしょう？ この3年、そろっていますよ。それから、この下ヒゲも、前のこの年から見たら、3年前の安値で止まっています。3年前を覚えているのです。ということでしょう？

それから、この年でいったら、この年の終値、そして翌年の初めにこうつながるわけです。こういうようにチャートというのは本当に不思議です。

加藤：本当ですね。

相場：一番やはり、皆さん、私もそう思ったけれども、この5年間、年足なのに、ぴったりそろって、こっちともそろっているわけです。チャートというのは全て、マーケットの全てをチャートが表しています。

加藤：いや、だって、こういうふうにしようと思っても、なかなかならないですよ。

相場：ならない、ならない。

加藤：それでなってしまうというのが不思議ですよ。

相場：これが日足だったら、何とか分かるのだけれども、年足ですよ。これで15年分ですよ。15年間あったのに、下がぴったりそろっている。

そして、何とこれはWをつくっています。下げて、上げて、下げて、上げて。W。

加藤：本当ですね。

相場：通常、マーケットの世界では、W底というのはやはり底なのです。一度下がって、もう一度上げました。上げたけれども、また下げました。でも、前の安値で止まっているということは、この下値は固いんだという。W底というのはすごく有効なのです。世の中で、市販で出ている本はほとんどくだらないものが多いのですけれども、W底は書いてあります。でも、W底は正しいと私は思います。

そして、W底をつくって、安倍政権が誕生して4年上げています。このときに途中経過として真ん中の高値を抜けたのです。これはやはり強い傾向です。

ただし、3万9,000円行ったとき、上昇は6年。そして、その後、その3万9,000円行っ

た以降で強かったのが小泉バブルで4年なんですよ。日経平均が1万円以下から、7,000円の後半から1万8,300円まで行ったのだけれども、4年間なのです。そして、やはり下げてしまいました。その後、安倍バブルで4年なのです。ここは6年でしょう？　ここは5年ですか。ここは今4年ですね。

大体、過去のバブルというのは、私はほとんど全部、見ています。トレーダーとして全部、携わっていますが、やはりはじめてしまうのですよね。

加藤：だから、バブルなのですね。

相場：バブルなのです。はじめてしまうのです。どこまで行くかということなのですが、やはりせいぜい5~6年。

加藤：ずっと30年間見ていらっやって、長くて大体5~6年。

相場：一番長いこの6年というのは高度経済成長期ですから、例外として、やはり5年ぐらいなのですね。チャートでこんなに分かるのです。それが本当かどうかというと、本当に近いと思いますよ。だって、過去の安値がぴったりそろぐらい、チャートというのはマーケットを表しています。

加藤：チャートは本当に一目で分かりますね。

相場：分かります。これはもう月足でも、週足でも、日足でもそうなのです。

次に、この1989年以降のチャートを見ていただいて、下げている時期がこれですね。上げている時期、下げている時期、これはもみ合い。下げている時期、上げている時期、下げている時期、もみ合い、上げている時期。

私が今出した言葉は、上げている時期、下げている時期、もみ合いの時期、この3種類しかないのです。下がっているか、もみ合っているか、上がっているか、それ以外ありますか。逆行している年とか、ないでしょう？

加藤：それはないですよ。

相場：ないですよ。つまり下がっているか、横ばっているか、上がっているしかない。ということは、全体のどれだけでしょ。上げだけというと、ここは例外にして、ここ、それからここ、これ、これだけしかありません。だから、上げだけ取っても、そんなに利益は。

加藤：大体半分というところですね。

相場：大きくはいかないです。下げも取れると、この下げを取って、この下げを取って、この下げを取って、この下げを取る。この後、恐らくどこかで下げてくるでしょうから。その下げを取る。つまり、上げ下げを両方取ることによって利益が大きくなるのです。

加藤：そうか。買いだけだったら、やはり半分程度の。全て取れたとしても半分程度ですよ
ね。

相場：そう、全て取れて半分。でも、そのうちの半分以下しか取れないから。

加藤：そうですね。確率からいったら。

相場：はい。だから、上げ下げ両方狙うことで、結構、利益は増えます。

加藤：利益は本当に大きくなるということなのですね。

相場：そういうことになりますね。ですから、ぜひ加藤さんも皆さんも、売りで取る。これは空売りといいます。30~40年前は、空売りは危険だと言われていましたが、今は全くそういうことはありません。私の弟子は全員、空売りをやっています。

加藤：でも、やはり投資家さんの中には「ちょっと売りは」という方がまだ多いのではない
でしょうか。

相場：多いですね。これは練習をした方がいいです。これをためらっていたら、今、見て
いただいたように、半分の半分の半分しか取れないのだから。やはり利益を取る機会は増や
した方がいい。そして、思っているほど大変ではないです。

加藤：そうですか。

相場：大丈夫です。全て練習なのです。大変と思っても、やってみると意外とできたりしま
す。私は上げも下げも取っていきます。こういうことを弟子たちに教えていまして、皆さん、
成功しています。

加藤：やはり練習が大切だというお話があったのですけれども、相場さんご自身は、もう 30
年、トレードされているわけですよね。これまでどのような基本的な考え方を持ってトレー
ドをされているのですか。

相場：基本は「株は技術だ！」。

加藤：技術。

相場：「株は技術だ！」とやっているでしょう。株は技術なのです。当て物ではなく、偶然でもなく、ランダムウォークでもなく、技術です。技術ということは、キャベツの千切りのように、1個切ったときはそんなに上手ではない。2個切って、ちょっと上手。3個切って、100個、キャベツの千切りをしたときにだいぶ上手になって。

加藤：リズムカルで、それで太さもそろってくるのでしょうかね。

相場：そうですね。100個、200個とやっていく間に、工夫をして上手になっていきます。だから、技術なのです。

ピアノだって、最初は弾けなかった。ところが、練習を何回も何回もして弾けるようになった。従って、技術というものは練習で上手になります。例えばピアノ。加藤さんも昔やったかもしれません。私も昔やっていました。でも、もうやらなくなって、うん十年たちました。だから、今、目の前にピアノがあったら弾けないけれども、練習を再開して、一生懸命、1~2年練習したら、多分、そこそこ弾けるようになります。

加藤：感覚が戻ってくるから？

相場：そうです。だから、技術なのです。同じように、株も練習をすれば、技術ですから。技術と捉えてやれば、上手になります。多くの方、ほとんどの方が上手になります。私は、株は技術だと言ってきています。

そして、チャートの基本的な動き。チャートというのはいろいろなマーケットのことを表しています。全てはチャートに表れる。これも私が今までトレードしてきた根幹なのです。

そして、チャートの流れが読めるから、ああなったあとはこうなるというのが分かる。例えばこの年足。安倍バブルで上がってきましたが、いずれこれは横ばいになります。横ばいになった後、下がっていきます。

そういう「ああなったらこうなる」「株は技術だ」「チャートに全てが表れている」。これは私が口を酸っぱくして弟子たちにお話ししてきて、みんなに勝ってもらった。そういうポリシーです。

加藤：何かそういうお話を聞いていると、じゃあ、やってみようかなという方もいらっしゃると思うのですが、相場さんご自身も、やはりいろいろな環境で相場というのも変わ

ってくるじゃないですか。やはりトレードの手法とか、そういうものもやはり精度が上がってきたり、いろいろ経験されてきて変わってきたところはあるのですか。

相場：ありますね。まず自分の技術に関してですが、私は今も練習しています。そして、あしたも練習する。来年も練習する。

だって、イチロー選手だって、毎日練習しているじゃないですか。それから、あんな世界最高得点を取った羽生選手だって、多分、今日も練習しているはずなのです。錦織圭選手だって、世界ランキングに入っているのに練習をしているでしょう？ 従って、上手になったから練習しなくて、自分は寝て暮らしているというのは、それは本当のプロではないですよ。プロで強くなれば強くなるほど、もっと練習していく。だから、私は今も練習しています。

従って、去年より今年の方が、私の技術も上がっています。おとしより去年の方が技術は上がっている。おとしより来年の方が技術は上がる。これまず一つです。相場環境も変わっていきますから、環境が変わるとそれに適応した技術を習得していく。それが一つ。

もう一つは、ここ3年ぐらい、皆さんに講師として教えているわけです。硬派であれ、勤勉であれと、株の技術を教えています。今までは自分のトレードだったのだけれども、人に教えると意外と伝わりません。

加藤：やはり自分の気持ちを伝えたり、考えを伝えるというのは本当に難しいですね。

相場：もう時々「俺の頭を割って、脳みそを持って行って見てくれ」と言いたいときがあります。伝わらないのですよ。だから、いろいろ工夫をするわけです。そうか。俺は自分ではできるけれども、弟子にうまく教えられない。何が……。そうだ。移動平均線。自分の考えを移動平均線を使って、こうなったらこうなるよと教えればできるのではないかと思ってやったのですよ。

加藤：ということは、初めは移動平均線を使っていなかったのですか。

相場：使っていなかった。ローソク足だけ。

加藤：そうなのですか。

相場：ところが、私が見ていたローソク足の動きを、移動平均線という媒介するものを使って説明すると説明がつくのです。例えば5日移動平均線の上にローソク足がある間は手じまわなくていい。5日移動平均線を陰線で割り込んだら下がる。これはそのとおりなのですが、これも今まではローソク足だけでやっていた、感覚でやっていたけれども、5日

移動平均線を使うことで、私と同じところで売る、私と同じところで買うことが弟子たちができるようになりました。つまり、教える技術も進化しています。

以前は5日移動平均線、25日移動平均線、そして75日移動平均線。世間一般で使われているものを弟子たちにも教えていたのです。ところが、今は5日移動平均線、20日移動平均線、60日移動平均線。これも進化しました。この方がうまくいくから。そういうことで、進化しているのです。

それから、うねり取りという手法。これがうねり取りというのが後で分かったのです。

加藤：ということは、相場さんが勉強されている中で、これはという、まず気付かれたわけですね。

相場：自分で、株価というのは上がった後、横ばって、下がって、横ばって、上がる。マーケットはこれをただ繰り返しているだけなのです。だから、このうねりを取っていったら、下がっていくときは空売りを入れながら、次の上げに備えて買いを入れていったらいいなとか、やってみたらうまくいくのですよ。これは俺、すごいことを発見したなど。

加藤：天才だと。

相場：天才だと思った。あるとき、本屋で立ち読みしたら、うねり取りと書いてあって、どんな取り方かなと思って見たら、俺のやり方をばくられたかと思ったけれども、江戸時代からあった。だけど、本に書いてあるうねり取りとか、江戸時代からのうねり取りというものに、やはり今のマーケットに合わせたやり方、それからプロではなくて、一般の方々にもできるやり方に日々進化させたのが私のやり方。

加藤：相場さんのエッセンスが加わったということですね。

相場：エッセンスが。そう、どこかで聞いた言葉だね。エッセンスがね。ということですね。

加藤：やはり常に日々、練習をして、進化していくことが大切だということですね。

相場：そうですね。自分を磨いているし、教える技術も変わってきていますよ。

もう1個いいですか。だいぶ前、富豪ファミリープロジェクトというプロジェクトをやって、受講生を全国から呼んで、セミナーをやりました。1回目、ホワイトボードにマジックで書いて講義をしていました。

加藤：ごく普通のやり方ですね。

相場：2回目、パワーポイントを使って、パソコンでやるようになりました。2回目は、パソコンでパワーポイントを使って説明していました。でも、白黒。ところが、前回やった相場ゼミというのは、1,300人も集まってくれたのだけれども、もうパワーポイントで、カラー、写真入り、映像入り。

加藤：すごい進化。

相場：例えば言葉で、30秒で教えられるものを、メールで教えると2時間ぐらいかかりません。

加藤：やはり文字にすると、すごく多くなりますものね。

相場：そう。だから、それを言葉で言ってしまう方がいい。「皆さん、ここはこうですから。こうです」。だんだん教え方も進化して、富豪ファミリープロジェクトの1を受けた方が相場ゼミを受けたら「先生、上手になりましたね」「何が?」と言ったら「教え方が」。そうなのですよ。だって、皆さんのために勉強しているのだから。ということで、日々進化です。

加藤：もう最近は、生徒さんの顔を見るだけで理解しているかしていないかもお分かりになるようなことをね。

相場：分かります。「あなた、分かってないんじゃないか」なんて、すぐ分かります。

加藤：相場さんの「教える技術」そして「トレードの技術」も日々進化しているということですね。練習と進化が大切だということですね。

相場：大事ですね。加藤さんも日々進化でしょ。

加藤：うん、したいです。頑張ります。

相場：では、ここで皆さんに、そして加藤さんに、私のトレード、プロの、本物のトレードを見ていただくかと思うのですが、どうですか。

加藤：ぜひお願いします、と言いたいところなのですが、実は、第1話はそろそろお時間のようですね。相場さんのトレードについては、次回、お届けしたいと思います。

相場：分かりました。

加藤：実はこの動画をご覧いただいて感想をお寄せいただくと、何と特典があるそうなのですよ。

相場：加藤さんとのデート権ね。

加藤：いや、それはあんまり特典にならないので、皆さんのトレードに役に立つ特典があるということですので、ぜひ皆さま、ご感想をお寄せください。お待ちしております。

相場：じゃあ、加藤さん、あれで締めましょうよ。ラジオと一緒に。

加藤：そうですね。

相場：行きます。「株は技術だ！」。